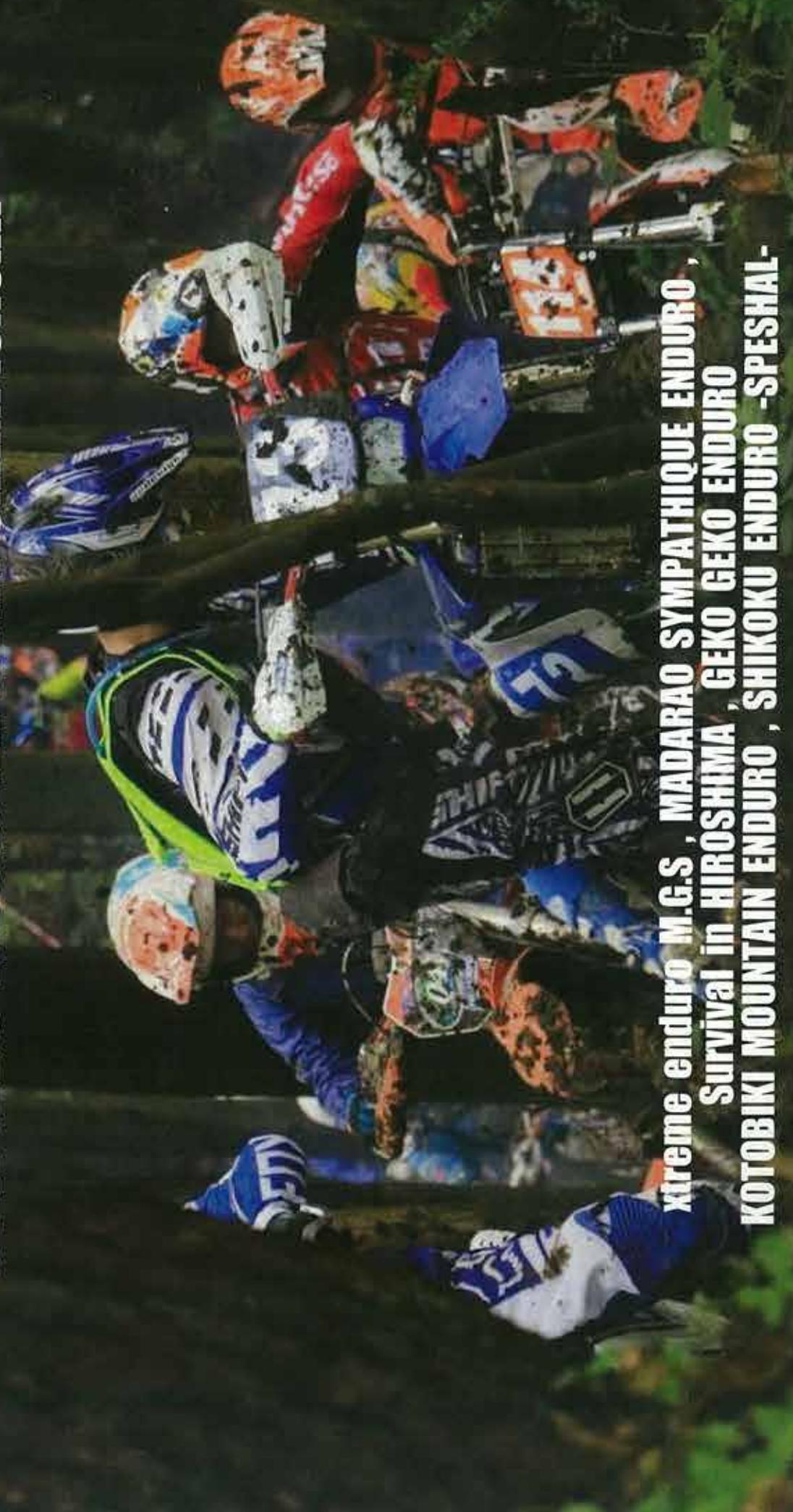


G-NET 2017

G-NET HARO ENDURO ALL JAPAN CHAMPIONSHIP



Xtreme enduro M.G.S , MADARAO SYMPATHIQUE ENDURO
Survival in HIROSHIMA , GEKO GEKO ENDURO
KOTOBIKI MOUNTAIN ENDURO , SHIKOKU ENDURO -SPESHAL-

際立つ存在感。
隅々までハイスペック、高機能。

REAL. ENDURO 2017 RR2T

Made in Italy

OIL MIXER ON ALL 2 STROKE RANGE
2T 250/300 OIL MIX

世界選手権及びナショナルエンデュロシリーズに参戦するファクトリーライダーからのフィードバックを受け、ダイレクトに品質とポテンシャルが向上。同時に「乗りやすさ、扱いやすさ」を追求しました。2016モデルから採用されたオイルインジェクションシステムを標準装備し、他にない商品価値を生み出しつづ。車体、エンジンとも細部までブラッシュアップ。さらに戦闘力を向上しています。

RR2T 250 ¥1,000,000(税別) (公道走行可、保安部品付属)
RR2T 300 ¥1,030,000(税別) (公道走行不可)

販売店様までの送料 10,000円(税別)が別途必要になります。RR2T250は保安部品・通関証明が付属し、登録が可能です。RR2T300は競技専用車となり、登録はできません。

Sachsフロントフォークは5mm伸縮され、フロントホイールトラベルが増加。LiquiMolyのフォークオイルが採用され、発熱とアクリシジョンを低減。Sachsリアショックは新しいHi/Loスピード調整システムを装備。より正確で干渉にくい調節が可能に。新設計されたステアリングシステムは軽量化と剛性UPを両立。Exelシルバーリムが新採用され、新しいイメージと軽量化を実現。速度、距離項目に調整機能が追加された新デザインのテンタルメーターを採用。バッテリー電圧表示も追加。燃料クランプにブリザーバルブが追加。2017モデルグラフィック、オイルインジェクション(税込) ￥100,000(税別) EURO4適合。

Beta
BetamotorJapan

ベータモーター 検索
www.betamotor.jp

MOTUL D.I.D BRAKTEC GALFER

輸入元 Betamotor Japan (ベータモーター ジャパン) 〒939-1544 富山県南砺市新郷7-4 TEL 0763-22-1731 FAX 0763-22-1732 betamotor.japan@gmail.com

KTM FUKUOKA

ENJOY!!
OFFROAD

www.ktm-fukuoka.jp

QRコード

KTM福岡はOFFROADを楽しむお客様を全力で応援します!!

KTM正規ディーラーオレンジショップ

KTM福岡

〒812-0863
福岡県福岡市博多区金の隈2丁目19-10
TEL 092-503-5337 FAX 092-503-1021
Email info@ktm-fukuoka.jp

KTM

FUKUOKA

ダートバイクZIMは
KTMの福岡正規代理店です。



EXC シリーズ

SX シリーズ

モトクロス・オフロード・エンデューロ・フリーライドは福岡県北九州市のKTM正規ディーラーのダートバイクZIMへ

DIRT BIKE ZIM

TEL.093-643-6888

Open10:00 ~ 20:00 Closed 日曜日

〒806-0046 福岡県北九州市八幡西区森下町 26-60

MAIL TO ZIM メールでのお問合せはこちら
<http://www.dirtbike-zim.com/>

G-NETという、個性。

2013年、5月。
岩手県、チーズナツツパーク。
レース名「マウントモンキースクランブル」。
ハード系文化というか、激しい内容のレースを開催する機会の少ない東北地区において、初めてG-NETが開催された大会です。
初開催といいましても、コース難易度は超A級。ヨーロッパを彷彿させるような巨大ヒルクライム、急傾斜のウズ。初回から、日本を代表するレベルの高い大会となりました。
この時の優勝者は、池田智泰選手。
そう、あのイシゲ選手です。

イシゲ選手が優勝する事自体、珍しいことではありません。
元JECチャンプですから、むしろ勝って当たり前な位です。
驚きなのは、彼がハード系の経験が無い、ということ。
しかも、決して有利とは言えないKTM450EXCFでの勝利。
ホンモノのエンデューロライダーは、何だって上手い。
それが、エンデューロだから。
当たり前のことでしょうか。
私自身は、この事を知らしめられた大会でした。

よく言われること。
あの人、トライアルライダーだから、有利だから。
あの人は、モトクロス出身だから、開けっぴりが違う。

では。
トライアルライダーでなければ勝てないのか。
MFJのトライアルやモトクロスの大会で勝てれば、通用するのか。
JECでIAだから、あのライダーには勝てないのか。
普通の大会は、そうかもしれません。
しかし、G-NETでの答えは、否、です。
確かにそういう経験があれば、有利です。
有利ではあるものの、絶対的に強い訳ではありません。
G-NETでは、そんな常識は通用しない。
ライセンスをもった経験もなく、エンデューロしかやったことがない。
それで、充分です。

現在の、G-NET固定ゼッケンライダーですが。。
半数以上が、純粹なエンデューロライダーです。
半数以上が、かつてG-NETの固定ゼッケンに憧れ
固定ゼッケンの枠外から這い上がってきた者です。

これまでも、数々のIAライダーが登場されました。
モトクロスはもとより、トライアルIASまで。
簡単に勝ったかといえば、決してそうではありません。
むしろ、固定ゼッケンの方が、楽しく走っています。

G-NETに、他のライセンスは必要ありません。
G-NETは、G-NETで練習したライダーが、勝つ。
それがG-NETであり、ハードエンデューロという競技だと思います。
どこにも属さない、G-NET という個性、競技性。
競技人口が減りつつある業界の流れに逆行し、年々成長を続けるG-NET HARD ENDURO。

G-NETは、あなたの活躍する舞台になり得るのかもしません。
それでは、G-NET戦でお待ちしています。

G-NET HARD ENDURO
全日本選手権 事務局

河津 浩二



06-6955-0125

<http://mtxrepair.com>
<http://mtxrepair.com>

KING OF G-NET 2016



#1 ROSSI 高橋 博 TEAM BETA エンジョイズ

今回で3連覇の偉業を成し遂げたG-NETチャンプ、ロッシこと高橋博選手。今や日本を代表する、HARD ENDUROライダーです。その経験が、トライアル国際A級であることは、もう周知の事実。無論、トライアルライダーなら誰しもできることではありません。彼なりの工夫、トレーニング、マシンセッティングの理論。努力に基づいての結果、なのです。特にトレーニング。車重やポジション、トライアル車と全く異なるマシンを確実に操作するには、かなりストイックにトレーニングをしなければ、これだけの成績は残しません。彼は多くの語りませんが、誰よりも直向に努力を続いていることは間違いません。

そんな彼を「盤石のキング」と言わしめるほど、完全勝利に近かったのが、2015シーズン。裏琴引でトライアル車のセンパイに勝利を譲ったものの、他大会は全て優勝。ほぼ完璧な形でシーズンを終えると、もう誰もロッシに勝てないのではないか。そんな懐想が飛び交うほどの強さを見せつけました。

そうして迎えた2016シーズン。G-NET初開催の「MGS」は、高レベルのセクションが連続する中で次元の違う走りを見せつけ、唯一完走を果たします。今年もやはり盤石なのか、誰も勝てないのか。しかし次なる第2戦「斑尾」で、突然歯車にズレが。パンクとマシントラブルに見舞われ、かなりの台数に先行を許してしまい、終わってみれば10位。こんな順位のロッシを見たことがあります。続く第3戦「in広島」もパンクが原因で2位。悪い流れは続きます。

勝ち続けること。それは単に、テクニックが優れていればいい、だけではありません。その日の体のコンディション、モチベーション、故障しないマシン作り、セッティング…特に厳しいコースが連続するG-NETにおいては、その全てが揃っていなければ到底勝つことは不可能。そして、運も。失敗の無い人生がないように、勝ち続けるということは、それだけ厳しく偉大なこと、なのだと思います。

その後、2016年8月。アメリカで開催されたエキストリームレース「テネシー・ノック・アウト」へ出場。健闘しますが、非常に惜しい順位で予選通過に届きませんでした。この時も又、悪い流れは断ち切れていました。セッティングに大きく不安を残した状態で、大舞台の戦いを強いられたのです。



世界のトップライダーが出場
「テネシー・ノック・アウト」

2017【黒色】固定ゼッケン

#2 和泉 拓

Team Beta ストレンジモーターサイクル

- Machine Beta クロストレイナー
- Spender Beta motor japan IRC TIRE
ストレンジモーターサイクル
JAPEX.net GAERNE SHOEI
WAKO'S JKdesign+products KRAZy

日本一のHARD ENDUROライダーまで、あと一步です。
今年こそタイトルを獲ります、応援よろしくお願ひします。



#3 河津 浩二 Team BLAZEマウンテン-IRC/G-NET HARD

この順位でしょ、もちろん狙ってましたよ(完全タナボタですけど)。それと、レース中に話かけるのも止めてもらいますか、レースに集中したいんで。えっ、逆に話しかけられた? レース中のライダーが、ギャラリーと立ち話した上に「写真も撮って」なんて、要求する訳ないでしょ。とにかく今年も頑張るんで…写真撮って!!



#4 山本 礼人 Team husqvarna奈良 SHINKO SLR なみあい

なんかチャライとか、口が走るとか言われてますけど、チャラくても速ければいいでしょ。レース中も↑の人があめっしゃメザワリなんで、今年は様こうと思います。いや、俺まだ若いんで。しかも、マシンもSHINKOタイヤも最高に登るし、速いんで、絶対負ける気しません。口も負けません。優勝するのも時間の問題ッス。



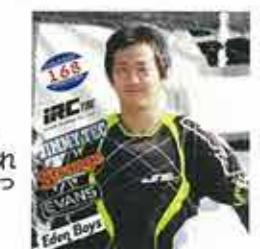
#5 大西 実 Team JIMMYTEC 九州男塾 BlueWing 菊城組

ジミーです。写真はこまき付きですが、これでお願いしますm(_ _)m。明日を夢見る44歳、BETA RR2Tに乗り換えましたが、どこでも登るんで、サイキョ~。仕事も最強のカーボン屋やってます、注文よろしくねヽ(｀^')/



#6 永原 達也 Team BLAZEマウンテン-IRC/BRAINS

いや、よく「Tacさんのストーカー」って言われますけど、そうです。いや、違うんです。ホンネはTacさんを越えないで、もっと順位上がらないで。日々の筋トレやって鍛えてます、体験りますから。まずは、食後のお菓子をやめます! あれ、美味しいで止められないんですよね。今年は一勝したいです。フレマン最高!!。



#7 後藤 英樹 Team サイクルショップ168

年齢31歳。マシン名はYZ250FX。人は私のことを「セクションが無ければ最強のゴッchan」と言ってますが、それって納得できません。確かにウィリー、ジャックナイフの見せ技しか練習していないけど、今年は「セクションも早くなつたゴッchan」って言わせますから! いや、出来れば、そう言ってもらえませんか。



#8 清河 良平 Team BLAZEマウンテン-IRC/BRAINS

去年、エンデューロIAになったんですが、G-NETにいるIAは、ロッシさんとTacさんと。そう、私、しかいませんので。もっとIAとして、尊敬して欲しいと思います。敬う、ってことです。できれば私のことは「IAキヨカワ」と呼んで下さい。今年はIAとして当然、一勝しますので。だってai(人工知能)、いやiaなんて。フレマン最高!!。



#9 毛利 雅一 Team テクニカル

シエルコX-Rideを操る、初固定の53歳です。固定はもちろん狙ってました、だってHARD ENDUROのステータスじゃないですか。いや、今後はもっと上の順位にも自信あります。年齢に関係なく、走れるところを見せますので、よく見ててて下さい。応援よろしくお願ひ致します。

M.G.S

G2016 第1戦 xtreme enduro

G-NET HARD ENDURO開幕戦「M.G.S」レポート
 ■日時 平成28年1月10日
 ■場所 フィールド佐賀大和(佐賀県)
 ■主催 YSP南くるめ MGSレース事務局
 ■出場台数 71台



トライアル時なコースが続きます。

このブロックも…もちろんコースです

佐賀大和はグリップの良い岩盤が多い



ナイスにヒューム管もなかなかの勇気が必要です

うつ、上手い!全日本沢の出口、ここは難しかった

ヘルプのスタッフに、ホント助けてもらいました



【MGSタイヤ祭り】 レベル高かった、トライアル車でも難しいハズ。

どうにか、マシンだけは乗り越えます

あら、ライダーはどこに?

○直前まで非公開な訳

M・G・S。聞き慣れないレースですが、九州では歴史のある大会です。いつもレース後半は、数台のマシンしか動いていない、という感じの大会ですが。そんな大会が最近のハードED人気の勢いに押され、復活となりました。新たなレースコンセプトは「エンデューロ版サスケ」?。ステージは全部で6つ、各ステージの門戸を越えなければ、最終ゴールまでたどり着けないという、莫大な沢の設定です。最終ステージに近づくにつれて難易度も急上昇。一筋縄にはいかないセクションばかり。なんせ、全日本TRで使われた岩盤沢セクションは、早くもステージ3で使われてるラベルですから!ですから世論の逆風対策なのか、コースの全貌は直前まで非公開。前日ようやくコースが解放されると、下見中のエントラントから叫び声が聞こえてきます。「もうキャラセルは受け付けません」ダメサしたのか、怖いもの見たさか、エントリーは73名。G-NET固定ゼッケンはもちろん、TRやEDの全日本メンバーも多数来場。特にTRではIAが6名、IB以上はかなりの人数になる有様。エントリーされたあなたの勇気を称えたいと思います。

○「デビルヒル」からの

内容のほとんどがペールに包まれてきたMGS。スタート方法ですら、当日ミーティングでの発表でした。のっけから問題発生、会場を見下るデビルのような巨大な崖(ステージ6の最終セクション)の淵に横一列に並ばざると、スタート合図ではあるかフモトに並べられたマシンまで走る、というスーパーバル・マン式スタート。某局の人気番組「イッテ○」のチーズ祭りを絶対意識したこのスタートに、レース前からライダー達は皆呆れ顔ですが、主催の志原さんはそんなことはお構いなし。スタートフラッグを閃かせ、全

員スタート!派手に転がる人はいませんでしたが、皆もハアハアと完全に息が上がった状態で、ようやくマシンにたどり着きます。

最初の難関は、この体調でのスタートの沢。狭い、冷たい、滑る、もちろん大渓流。その後もトライアルセクションを走り続けてロックの登り。練習でも絶対行かないオーバーハングのヒューム管、他多数のセクションをぐり抜け、ようやく第3ステージへとたどり着いたのは、エントリーの半数ほどでした。

○ああ無情

直径が2メートル程のタイヤ、どんなトラックを使ってたの?って位の巨大タイヤがちくわ状態に並べられ、あろうとかその手前の地面が…。跳ね返され、そのまま墓穴に落とされるかのように、大きく掘られているではないですか。無情にも、この巨大タイヤ3つを越えることが、第3ステージの始まりなのでした。これは絶対に誰も行けない!危機感に襲われた現場スタッフ、急進各タイヤ1カ所だけスロープの土盛りをしてくれました。しかし、それでも何十もの尊いライダーが期待どおりの跳ね返しを受けることになりました。恐るべしMGSタイヤ。これもまだ3ステの入り口に過ぎません、問題は「全日本の沢」。絶対に落ちるキャンパーから、泣きそうになる沢の階段。ようやく登り詰めた所に現れるのは、ツルツルの巨大岩盤、これが全日本TRで使用されたセクションです。…をどうにか越えても、見上げるような、無造作に積み上げられた岩のステア。これでもか、これでもか。これだけのセクションを乗り越え、ようやくたどり着いた4ステ入り口。しかしこもまだ、コースの中間地点なのでした。



この岩の大きさで。しかも登りですよ! 信じられません。

○ロッシとスコップ

第4ステージ。思い出すだけでもオゾマシい難関ステージ。沢を中心にして右のウツヒルを登ったり転落したり、とにかくイヤラシイ。難所は、基本「助走」という考えはありません。テープを貼ったのだから、そこを進んで下さい。この超強気なコースに、ライダーは七転八倒。誰からも見られない山中で、孤独に闘え続けるのでした。

今回の#1チャンプロッシ高橋YZ250FXONE、2ステからトップに立つと、MGSタイヤでは岩のキックカケから大きいリアを飛ばして、マシン横ジャンプでクリア。その後もミス無くジャービス的走りを淡々と続け、開始2時間で第4ステージクリアという驚異的な走破力をを見せつけたのです。しかし問題となつたのは、第5ステージの入り口「駐車場の壁」。駐車場脇の高さ5.6メートルの壁、ここは本部テント直近の「見せ場」で、ギャラリーも多数集う場所でした。通常、壁を登るのに一番大事なのは、登り口付近のJ型の形、Jが大きければそれだけ登りやすいと言えます。今回はJどころか、地面が大きくエグラれた状態。数回アタックしましたが、さすがのロッシもマシンを大きく後方へ一回転、全く登れる状態ではありません。多数の観客がどよめく中、この悪い空気を一蹴する為、主催者が用意したのは、特別ルール「一本のスコップ」!好きに使ってくださいと、ロッシに手渡しました。まさかのトップライダーによる土木作業開始にわり、ようやくJ型発射台が完成。同時にロッシの闘争心を自覚させ、その後の5、6ステージも一気にクリア。最終ゴール、フカフカザクザク「デビルヒル」をも全開アタック。頂上付近で技の折り返しを見せ一発で登頂、ゴー!! 残り20分を残し、今回も優勝を飾りました。

続く2位の選手は…地元有利の特権を使いまくった走りの、#10私め河津KTM300XCW! フラフラになりながらも4ステを2位通過、さあゴールは目前…と思いきや、立ちはだかるのは#5ADtaeと泉拓選手BETA RR2T。痛めた膝の為、スタートもかなり後半となり、大渓流の渦中でレースは終わつたかと思われましたが、難所で他ライダーをゴボウ抜き、2位まで追い上がるとは、なんという実力でしょう。しかしこの二人とも、最終第6ステージでタイムアウト。

【リザルト】上位6名

優勝 高橋 博

2位 和泉 拓	TEAM BETAストレンジモーターサイクル
3位 河津 浩二	G-NET 1RC BLAZEマウンテン
2位 熊本 悠太	BETA RR2T TEAM BETA バイカーズペア CFR
5位 中山 敏治	YZ250FX 大村ライダース&フジサワ
6位 清河 良平	KTM250EXC G-NET BLAZEマウンテン

4位は#3熊本悠太BETA RR2T300、新車を投入し、相当な意気込みで挑みましたが最終的に一步及ばず。5位は、TRIAのテクニックを存分に駆使し、G-NET初登場にしてこの順位#16中山徹治YZ250FX。6位は急成長の期待のライダー#9清河良平KTM250EXC。入賞した勢いで、表彰式ではプロポーズまでやり遂げました。ここまでが第4ステージまでタイムアウト、結局ゴールできたのはチャンプロッシ高橋選手だけ、という結果となつたのでした。

以上のとおり、年をまたいで日本を代表する強烈なレースが2本、開催されました。共通するのは「制限時間内にコースを一周できるか」という、いわゆる「エルツベルグルール」です。今はどちらも3時間以内で一周、という設定。かつてGEKKO-ONEにて導入したスタイル、がつりつり走破力の勝負となる為、コースレベルも格段に上がります。その反面、コースの取り回し、難易度の設定も難しく「やりすぎ」になりがちです。きっとコース管理をすれば、観客も一緒に盛り上がり、話題性も上がりますから、今後は新たなレーススタイルとして定着して欲しいものです。

又、この2大会を神的存在な方が出場しました、「鈴木健二カントク」!その有り余るボテンシャル、「ナミアイオールスター」では狭い予選コースを全開走行。決勝では強烈なビルクラムを全開でアタック、常に全開の鬼で5位の位置を走り続けていましたが、フロントブレーキ破損で惜しくもリタイヤ。「MGS」でも、第3ステージまで6位の位置にいながら、ハンドルを破損してDNF。共に結果には繋がらなかったものの、ハード系セッティングでないマシンでこの成績、本当に恐ろしいスキルを見せつけられました。真に一流なライダーは、何をやっても上手い!そして何よりも、コースを選ばず全力でアタックする姿勢、恐れ入りました。

今回、「始めてこんなレースを観て、人生観変わりました」とのメールも頂きました。参加者も観客も、確実に増えてきてるG-NET HARD ENDURO。今年も「熱男」ですよ!(しまった、パクリでシメちった)。

斑尾

SYMPATHIQUE ENDURO

G2016
第2戦

2016.5.14-15
MADARA SYMPATHIQUE
ENDURO
を FREE RIDE

G-NET HARD ENDURO最3戦「斑尾サンパティックエンデューロ」レポート
■日時 平成28年5月14-15日
■場所 長野県飯山市 斑尾サンパティックスキー場特設コース
■主催 CGC実行委員会
■出場台数 総台数180台 (グローバルクラス71台)

SPESHAL THANKS!!
□PHOTO SOUSHI NAKAMURA

□REPORT 山本アヤト



熱い。熱さが伝わってきます



離コースへとスタート!すぐに飛ばさなくても良い世界に入りますから。



キングロッシに悲劇。マントラブルが!

全国の1万人のG-NETファンの皆様、こんにちは！
この度、なにやらG-NET冊子が復活するとの事で興奮気味でして、毎日8時間程しか寝れていません！
G-NET 期待の大新人、アヤトです！
今回担当させていたくのは、第2戦 斑尾大会のレポートです！
で、皆さん！斑尾ってどこのコースか知っていますか？
普段はコースとしては解放していない、レースがあると特設会場として開催してもらっています。
長野県の飯山市にある、斑尾サンパティックスキー場ってトコなんです。
高速道路を降りてからは、自然豊かな田舎道を走りコースへと向かいます。なんだか田舎に住むあはあちゃんの家に遊びに行く様な気持ちにさせてくれます。しかし後半はタイトコーナーが多く、後部座席でどれだけ気持ちはいい寝ても必ず自分が覚めてしまう程ですが、それはコースに近づいている合図もあります。まず、車を降りたらサインを求めてくる数々の群衆を振りほどき、景色を楽しんでください。
きっと、「もし、レースがダメでもまた来年來よう。」そう思えるような景色があなたを待っていることでしょう。

え～ 毎度長い前置きにお付き合いありがとうございます。
ここからはレースのレポートです！

斑尾は2daysで開催されるのが定番となっており、前日はフリーライトと下見をして過ごします。
G-NETの下見ともなると、コースは広いし坂は急だして歩いて回るのは大変。
もちろん、翌日の本番コースは走れませんが、近くまでフリーライトしながら行って下見をするスタイル。
みんなと楽しみながら下見できるし、バイクのセッティングもレース前に確認できるで助かりますよね。
斑尾は標高も高いので、キャブレターのセッティングは見直しておきたい。
レース直前まで寝る為に土曜日にうちに完壁に仕上げておきましょう。
で、土曜日の下見です。バイクに乗ってレッツゴー。
このコースは去年も走っていて全体の雰囲気は分かっていたので、新しく追加となったセクションを重点的に確認。
特に沢です！沢がゴツツイ！



どうです、このロケーション！ライダーは6位入賞の永原達也



「俺が1番や！」と勘違い中のポジティブライダー、アヤト。



沢で驚異的な走破力を見せた、伊藤明男スペシャルマシン



それって、上がります？



スタッフも体を張ってのヘルプ



アヤト君より、両側の大ベテランが気になりますが

【リザルト】上位6名

優勝 伊藤明男 varme trycross01 varme, TCR27 ベータケノン/ケニーズクラブ

トライアル車はシリーズポイントに加算されない為、上位ランキングは以下の優勝順位の通り

1位	山本 礼人	KTM300EXC SLF+SHINKO+Dirtbikeplus
2位	大宮 康司	YZ125 DINO RACING 萩城組
3位	大西 実	YZ250 JIMMYTEC&BlueWing&九州男塾&萩城組
4位	鈴木 健二	YZ250FX Blue Riders with YAMALUBE
5位	和泉 拓	BETA RR2T/300 TeamBETAストレンジモーターサイクル
6位	永原 達也	KTM250EXC ブレイズマウンテン+BRAINS

が立たない。」

そう落ち込んでいると、観客の方に

「アヤト行け！ケンジさん抜けは5位だぞ！」そう告げられました。

なあへんだ！僕が心配しそうです。

狭い沢で転ばれていたので、バイクをかけて頂き、サクッと抜かせていただきました。アザスッ！

この調子でボンボンと順位を上げていき、1時間ほど走って、2周目に入ったところでしょうか？

ロッシさんも沢の中で休んでいる様子でしたので、サクッと抜かせて頂きました！アザスアザス！

あとから聞いた話ですが、タイヤがパンクしていたそうです。確かにあの沢はパンクするゾライです。(SHINKOタイヤはパンクしても大丈夫でしたが) 実はこの時、1位だと思って走っていました！今思えば恥ずかしい！！笑

パリパリの2位で、1位とは20分近く離れていましたと思思います。笑

離れすぎていて、勘違いしてました～。笑

恥ずかしいっすね～。笑

ってことで、このまま2位でゴール。で、あの時沢で抜かせて頂いたケンジ選手は5位に！！！！

やっぱり恐ろしい。次JNCC行った時は、ケチョンケチョンにやられるな。。。と覚悟しました。(追伸…8月のJNCC 林の木では2回くらい抜かれました。もっともバトルにもなってませんが。笑)

と、いうことで、G-NET最高っすよ～！！っていうレポートでした！笑
次、レポート書くのはRedBull系のレースに出たときでどうか？

2017年はゼッケン4番で走ります！山本アヤトでした～！！

G2016 第3戦

SURVIVAL IN 広島

G-NET HARD ENDURO第3戦「サバイバルin広島」レポート

- 開催日時 平成28年 6月 26日
- 場所 広島県高田市 テージャスランチ特設コース
- 主催 SP忠男広島
- 参加台数 125台



このページの画像は、ED界最強ブログ
「道を踏み外したねこの部屋」
の全面協力で製作しています。
<http://fumineko.way-nifty.com/>



大迫力、ここでしか味わえない「全車一斉スタート」

…の後は、この混乱ぶり！

・真夏のマディ
暑いですねえ、アツイ、アツイ、アツイ！レース当日が、こんなに酷暑で、晴天になるとは。今年の梅雨がタイヘン長かったなんて、もう忘れてしましました。広サバは6月末の開催、コース作りは、梅雨の6月に入ってから始まりました。最初の日曜、大雨。翌週、大雨。コース作り最終日、大雨。結果、大雨～と大雨、スタッフの皆様ホントにお疲れさまでした。そんな大雨でのコース作り、もしかすると土石流の跡のようなコースに仕上がったのでは。と心配しながら下見を見ると、なんと新設コースも入った気持ちの良いコース。雨設定のコース作りなだけに、比較的ユルさのあるコースに仕上がったのでしょうか。油断タイテキ、きっとサバイバルな罵が待っているに違いない！

・誰が1番速いのか

この大迫力は、国内で唯一ここだけ「全車一斉スタート！」。通常、固定ゼッケンだけがハンディの1分遅れスタートしますが、今回は「面倒だからみんな一緒に並んで、誰が一番速いのか白黒つけなさい」と主催者からのお言葉。わかりやすい！かくして、今回は正真正銘の一斉スタートとなりました。100台以上のマシンが、横一列に並ぶ圧巻の景色。その並張りつめた空気の中、主催の杉野さんがスタートフラッグを振り下ろします。その瞬間、地鳴りを轟かせた一人の群れが、一齊に第一コーナーへと押し寄せます！がしかし、路面の牧草地は以外にヌルヌル。ブレーキングできず勢い余ってコースオーバー、早くも大混乱の始まります。その中から先頭を切って飛び出したのは、久々に登場しました#2塾長こと藤田貴敏。小回りの効くフリーライドの利点を活かし、小気味よく走り抜けます。やはり塾長が1番速いのか！しかし、スタート山の登りでパワーで圧されます。ここで先頭に出たのは、勢いだけは誰にも負けない#54熊本ユータBETA RR2T。それに続けばかり、後続もベースを上げて追従します。やはりユータが1番速いのか。この時はまだ、誰が1番速いかなんてどうでもいい位、サバイバルな悲劇になるとは、知る由もありません。

・悲しい物語2016
今回のレースの山場は、早くもトップグループ2周目に現れます、スタート山のヤチの悲劇(これだけのセクションなのに、名無しなのです)。元々こ

こは、下見の時点で既にズブズブ状態。予想どおり、スタート直後の押し寄せるマシンの群れに耐えれるはずもなく、決壊。梅雨の豊富な水を蓄えたヤチは泥地獄と化し、多数のマシンを飲み込み、そのまま泥の溜まりで力尽き動けなくなったライダーの姿もありました。まさにサバイバル、しかしうなっても絶対にコースカットはしない、広サバの真骨頂がここにありました。

この戦場が、レースの流れを変えます。大半の選手は、ここで大事な体力をロス、トップグループも泥濘で乱れます。ようやく抜けだしても、前後のライバルを見失い乱調ペース。まずトップだった熊本ユータは、その後立木に突っ込んで冷却ラインを損傷、ペースダウンとなります。ロッシ高橋は、なんとフロントタイヤをパンク、ピットインで順位を落とします。塾長藤田は、別のヤチにハマって泥死。レースは一体誰がトップなのかもわからない、サバイバルな様相となっていました。

・テージャス山のヘアピン

その後、難所も次第にワタチが定着し、コースは安定して走れるようになってゆきます。それでも気を抜いて失敗すれば、貴重な時間と体力を大きく失います。順位を維持するためには、失敗しない緊張の走りを続けなければなりません。そんなライダー達をあざ笑うかのように、恐怖のヘアピンがやってくるのです。コースは急坂下りの途中からコースステープで塞がれており、振り返るように急角度のキャンバーを登ってゆく、という設定。まさにテージャス山のアラクション。大半のライダーは曲がりきれずに落ちてゆきます。落ちたライダーはテージャス山を大きく回り込んで登る。迂回路に入っています。

そんな緊張感の漂うレース後半、トップを走るライダーは、なんと私め河津。運の流れに任せて先頭に出た私めでしたがが、せっかく拾ったトップ、簡単に失いたくはない。テージャス山も横這げの怪しいラインを走り、どうにかトップで踏ん張ります。しかし、その後方に迫り来る影が。パンクから復活したロッシ、ハイスピード展開を得意とする後藤英樹や山本アヤト。失敗もおそらく、差し違える勢いで猛追してきます。このワンミスで順位が入れ替わり、緊張で胃が痛くなりそうです。さあ後半は誰が勝つかわからぬ、サバイバルなレース展開となったのです。



素晴らしい！ 応援に行きたくなります、踏ん張って下さい。



よく踏ん張りました、優勝の#10河津



猛追中のロッシ



スマセン、溶け込んで。いるのがわかりませんでした。それにしても出ます。それ？



あるみやさん、何の作戦中ですか



堅実な走り、Tacさん



そんな発奮的な態度は、あとで痛い目にあいますよ

【リザルト】上位 6 名

優勝 河津 浩二	KTM300XCW G-NET iRC BLAZEマウンテン
2位 高橋 博	YZ250FX 風の会YSP磐田エンジョイズ
3位 後藤 英樹	YZ250FX サイクルショップ168
4位 山本 礼人	Husq TE250 Husqvarna奈良+SHINKO
5位 和泉 拓	BETA RR2T TEAM BETAスレンジモーターサイクル
6位 熊本 悠太	BETA RR2T TEAM BETバイカーズペアCFC

そして…あれ、一緒に走っていたジミちゃん大西選手は…、なんとチェックと一緒に合わず、タイムアウト！4周もしたのに、リタイヤ扱いとなつたのでした。自分に負けた、ということで諦めて下さい。

参加125台中、完走規定のトップ周回75%の3周以上走った選手は、わずかに12名。一周できたのも、50台のみ。後半は走りやすくなつたとはいえ、なんと半数以上のライダーが一周できないという、サバイバルな結果となつたのでした。

2017サバイバルin広島は、なんと20周年記念大会。こんな大会、20年もやってるんですね、ナンテコタ。しかも、ど派手にやるそですよ(何を?)、これは楽しみ。一年後にまた集合しましょう！

GEKOGEKO

ENDURO 北海道

G2016 第4戦

G-NET HARD ENDURO最4戦「GEKOGEKOエンデューロ」レポート

- 日時 平成28年7月17日
- 場所 北海道俱知安町 元気村 特設会場
- 主催 モトバレーゼ
- 出場台数 50台



■キングロッシ「高橋博」レポートも上手い!!

思えば一昨年。Gネットの河津さんに、「北海道でゲコゲコエンデューロ」という、どっかで聞いたことのある怪しい感じのエンデューロ大会があるんですね? 知ってます? 「なんじゃそりや? ゲコゲコって、ゲコワンの真似か? ちょっと見てきてよ」ってなやり取りが事の発端でした。僕の個人的な好奇心で見に行く気満々だったというのもあります。最大の目的はGネットシリーズとして北海道戦ができるかどうかの見極めをしててくれ。

という河津さんの思惑があつたのです。Gネットシリーズは西から九州、四国、中国、中部、関東、東北までは網羅していますが、唯一無かつたのが北海道だったので、これが叶うと全日本シリーズとして完全になるわけです。また、潜在的にアタック系ライダーの多い北海道でGネットを開催することで、全国的に盛り上げたいですね。

思い立ったのが吉日、チャツと主催されている北海道の浅水さんに連絡し、北海道にひとっ飛び。そこで元気村のオーナーの佐々木さんを紹介していただきました。その時に、お借りしたハスクバーナでコースの名所巡りをさせていただいたのですが、それがまた何処を走っても超ツルツルで難しかつたっていうのが第一印象です。あの沢の滑り具合は、本州にはちょっと無いですね。でも、これをベースとするJECウィメンズの福田選手はスイスイ走っていくんで、ちょっとビビりました。さすがチャンピオン! その呑みっぷりもネ(笑)ということで、何の問題も無くGネットシリーズに参加することで合意。それから一年後の開催に向けてまたコツコツと開拓されたわけですが、出来上がったコースはまさに、正直な感想ですが、Gネットシリーズを通して最も最高に走りこたえのある面白さだったのです。

こうして今年から初めてGネットシリーズに参入した北海道大会は、蝦夷富士と言われる綺麗な羊蹄山の北側、俱知安町(くっちやんまちーなんかかわいい)にある元気村の特設会場で行われました。約20年前にこの一帯の山林を購入されたオーナーの佐々木さんがコツコツと今回の特設コース作りに専念され、いつかは全日本シリーズのエンデューロをやりたいということで、それが実現した記念すべき大会となったわけです。

この会場の特色は、とにかくスケールが広くて、沢が大半を占めています。しかも、滑る沢と滑らない沢が極端で、ユーチューブの動画でも名物となっているサーモンロックは長さが約20メートル、斜度は20度ほどの一枚岩なんですが、そこにはじっと立っていられないほど滑ります。また、コース自体が全体的に、山から水が湧いている箇所がたくさんあるので、晴れていても結構スリッピーなのです。どんなことがあっても止まらずに走り抜けるという、淡々とした走破力と高度なテクニックが問われる、そんな会場です。

さて、大会には本州からは15人、道内からは35人の参加者があり、本州の大会と比べると若干少な目ですが、第一回目としての数字目標はこれくらいの設定だったので、まずは大成功。それと驚いたことに、観客サービスの点において、観戦ポイントまでの自動車送迎サービスやバイクでの移動の許可など、他にはない、素晴らしい取り組みがありました。これは他所では真似できない、元気村のレイアウトならではだと思います。でも、これは絶対に良いサービスなので、今後も続けてほしいですね。

さて、北海道の大会に参戦するにあたり、通常はトランポにバイクを積んでフェリーでの移動が定番ですが、今回先にバイクのみフェリーで先行して送り、会場まで届けてもらえるサービスを利用していました。これもオーナーの佐々木さんの粋な計らいです。

名古屋港から苫小牧までバイクだけだと片道1万3千くらい。火曜日にバイクだけ送れば木曜日の午前中には到着します。人間は木曜日の飛行機でセントラルから新千歳まで飛ぶのですが、ジェットスターで片道1万くらい。バイクの方が高いのかね。やってみた感想は何かと便利な反面、やはり道内での移動からはじめ、バイクのガソリン購入やその他モロモロ、どうしても誰かを頼らなければならない事が多いで大変です。そんなサービスを利用したのは私と、同じ愛知から遠征した唯一の女性ライダー、京藤さん(通称ゴン様)のみでした。ゴン様は女子トライアル界においても走破力は抜群なテクニシャンなので、Gネットでも黄雀を拝してボチ扱いされないよう、皆さん要注意ですよ。



「サーモンロック」に挑む、3位入賞の大西実。この位開けていかないと、登らない!!



→そして、この幅の狭さ。ここにしかない高難易度の場所デス。



G-NET北海道上陸です



さすがのテクニック、トップスタートのHusqvarna選手



あれ、やっつかった。まさか、G-NETランカージャ…



「ファイト姉さん」も北海道上陸です。



TKOトレーニングになりましたか



「ヒグマの沢」G-NETは北海道でもこのロケーションです。頑張れ!



【リザルト】上位6名		優勝 高橋 博	BETA RR2T300 チームBETAエンジョイズ
2位	佐伯 竜	Husq TE250	Husqvarna札幌
3位	大西 実	YZ250	JIMMYTEC 九州男塾 Blue Wing
4位	飯田 見久	YZ250F	TEAM SPEED
5位	和泉 拓	BETA RR2T	TEAM BETAストレンジモーターサイクル
6位	山本 礼人	Husq TE250	郡SHINKO+dirtbikeplus withアスクナ・奈良 CGC

そんな気合を入れてスタートしましたが、第一コーナーで握りこぶしの大石に前輪をとられ、いきなり単独転倒というオチを演出。後ろを振り返ると4人くらいしか見えなくて、かなり望的な気分になりました。でも、ここから抜けまくっていくしかないんで、気合が入りました。普段は観客の応援にもちゃんと応えるんですが、もうそれどころじゃないって感じで必死ですよ。その前半のコースは約3キロの沢(ヒグマの沢)を越える感じで、かなりタフな設定でしたが、ジリジリと前を走るライダーをひとりひとりバスし、中盤には地元のエース佐伯選手を捉えました。そこはちょっとしたポイントとなる場所で、佐伯選手は休憩に入ったように見えたので、すかさず横から進入。結果ここでトップに立ったわけですが、ここで頭に抜けた意味は非常に大きかったです。そこから後半は全てのセクションがツルツルに滑る沢やヒルクライムでの勝負場が続き、しかも狭いのです。

僕はそんなセクションを攻略するために敢えて普段雨の日に練習してますから、自信を持って全てのセクションを一発でやっつけました。でも、自分的にはスタートでほとんどビリだって分かっていたから、ずっとまだ先に誰か居ると思いながら、幻のトップを終始追いかけていた。その結果、1時間11分でゴール。主催者の2時間以上はかかるとの予想を大きく覆す優勝となりました。因みにユーチューブで私のヘルメット動画も見ますが、特に後半最後の方は、恥ずかしながら吠えまくっています。動画だと平地にしか見えませんが、全部難所の勝負所だったと思って見てもらえると嬉しいかな。

今年はこの大会の前に行われた筑波と広島の2戦、連続してパンクの神様が降臨し、またエンジントラブルにも見舞われ、散々でした。また、大会直前とはいえ、長らくお世話になったヤマハからベータにマシンを乗り換えての初陣だけど、絶対に恥ずかしい戦績は残せない。それと、アメリカ遠征前にちゃんと勝っておきたい。そんな新しい相棒のベータRR2T300は、乗り換えた初日から自由自在に乗りこなすことができて、わずか3週間で充分な手ごたえを感じていました。世界のトップライダーがこぞって2スト300に乗る理由が、今頃になって分かりました。それと、IRCのゲコタ。このスーパースリッピーな元気村の沢でもしっかり路面を掴んでいました。やっぱスゲえタイヤだな。BETARR2T300とIRCゲコタ。タイアップと日本が作った史上最高の逸品で、アメリカのTKOも頑張ってこようと思います! 以上、この大会がいかに面白いものだったか、今どきはユーチューブでいつでも見れます。「Teamモトバレーゼ」「元気村」で検索・検索~!

高橋博

裏琴引

MOUNTAIN ENDURO

G2016 第5戦

■日時 平成28年10月8日
 ■場所 島根県飯南町 琴引フォレストパーク 特設会場
 ■主催 琴引MED実行委員
 ■PHOTO Mitoko,Fumineko Miyata
 ■出場台数 裏13台 表230台



やはりロッソはフルグレップ!!



もう定番となりました! ル・マン式年齢順スタート



うん、よくそなになります!



そんなところで何してるって? 出場した方ならわかりますよね。

○これが広島Style
 冷ややかで澄み切った空気を感じる、初秋の朝。さあ、この時期に毎年開催されています、G-NETシリーズ最大級の大会「琴引マウンテンエンデューロ」。今回のエントリー数は251名(うち裏琴引エントリーは110名)と、例年どおりの大盛況ぶり。この琴引は、シーズンオフのゲレンデを、オープンエンデューロのコースとして利用することで集客を上げ、地域共存、地域活性化に繋げています。現在は各地で様々なスキー場が利用されていますが、その先駆けはここ中国地域と言えるかもしれません。きっかけを作ったのは、今や伝説的な大会となりました「美和マウンテンED」。山間部の地形を利用した強烈なアップダウン、急角度のキャンバー移動、深いヤチ、川、等々。現在は終了していますが、この大会の影響力ははかりりません。コース作りは今も美和がモデルとなってますし、広島styleの原点と言える大会だったのです。
 そして現在の琴引大会というと、さらにスキー場の管理会社、地域自治体、ペテランスタッフが一致団結、「地域を盛り上げる」という目的の下、共存共同して開催している大会なのです。今回は開催前に、一部報道によりコースの開拓について過剰に取り上げられていたようですが、琴引はどこ

域住民、ライダーが一体となり運営している大会はありません。相互連絡の行き違いによるミスはあったかもしれません、だからと言つて運営の全てが問題であるとは限りません。「人と自然が共生する里山」作り、地域住民もスタッフも皆同じ気持ちなのです。今年で第6回となる琴引。こんな魅力的な大会ですから、これからもずっと続けて頂きたいと思います。
 ○裏琴引の味付けは
 球琴引の大会を「料亭の懐石料理」に例えるなら、裏琴引は「料亭のまかない料理」と言ったところでしょうか。コース作りの課程で生まれた、濃いめのコース。前座的に開催される「裏琴引」とは、日曜の本大会「裏琴引」のコースを、より深くテクニカルに仕上げた大会なのです。
 今回は開催直前でコース変更となり残念ですが、だからといってこの琴引が普通のレースと同じようになる…はずがありません! 短ければ短いなりに、難所は様々な場所に配置されているのです。マディな路面で、次々と現れるヒルクライム、ゲレンデコーナー、そして沢の激下り。さあそれでは今年の裏琴引、腹一杯堪能させて頂きましょうか!



ガレ下りは一列で気をつけて!



「表」のゲレンデはタイヘンなことになりました



これって、どういう状態なんですか。



ジミー大西選手、上手すぎ! (この後は、ご想像のとおりです)

表3位! タイチエン柳原選手



フリーライド
乗れます
ね、塾長!



tacさん、
かっこいい!



「裏」表彰の、ヘンタイの面々!



2016G-NET画像大賞 「穴があいたら入りたい」



大丈夫ですか。寒いんですか。



これが「表」表彰の、大人げない3人です

【リザルト】上位6名	
優勝	高橋 博 BETA 2TRR300 チームBETAエンジョイズ
2位	河津 浩二 KTM300XCW G-NET iRC BLAZEマウンテン
3位	山本 孔人 Husq TE250 Husqvarna奈良+SHINKO
4位	和泉 拓 BETA RR2T TEAM BETAストレンジモーターサイクル
5位	永原 達也 KTM250EXC iRC BLAZEマウンテン+BRAINS
6位	後藤 英樹 YZ250F RT168

3位はスキルの高いヒルクライム連発でしたが、後半ペースを落としてしまいました。しかし実力は申し分ないです、優勝へのマジック点灯中#8山本アヤト選手。4位、もうテクニックやペース配分は既に優勝レベルを越えているのですが、マシントラブルに泣きました#151伊藤明男さん。5位、移動区間はマジ速!ゲレンデは間違なく1番早いです。しかしリヤブレーキペダルが船のように曲がるとはホントに残念でした。#5和泉tacさん。6位、tacさんの近くに…またいた!ホントストーカーじゃないの。でも、あの速さについていけてるとは、その実力が弾ける日は近いはず、#4Nタツ永原選手。以上の結果となりました。

○そして、裏琴引はというと…

晴天で終わった裏琴引のあと、天候は一転。夜から降り始めた雨は豪雨となり、荒れた路面がいっぱいに水を含んだ状態で翌日の表琴引開催となりました。こうなると、スタートのゲレンデを走駆け上がるのも一苦労。暴れるリヤタイヤを押さえきれず、転倒者が続出。土曜はなんて事も無かった至る場所が黒マディに豹変。さわやかな表琴引のコースの難易度は、裏と逆転する事態となってしまいました。オモテに参加された皆さん、天候だけに仕方ないとはいえ、裏並み、いやそれ以上に厳しいコースであったことは間違いません。

なお、オモテ琴引の結果は、優勝「塾長」藤田、2位私め河津、3位「タイチエン」柳原、4位ウランさん、5位なみあい佐々木君、6位葛城熊さん…という結果。上位3名は、福岡BLAZEマウンテンで練習する往年のWON ET3人衆が揃っての受賞でした。この大人げない3名については、さわやかな表コトビキ大会の平和を乱した罪で、次回からはエントリー拒否、ということで対応したいと思います!



四国 ENDURO SPESIAL

G2016 第6戦

G-NET HARD ENDURO最終戦「四国エンデューロスペシャル」レポート

- 開催日時 平成28年11月13日
- 場所 徳島県美馬市 美馬モーターランド
- 主催 単車屋キントウン
- 参加台数 45台



まずは、この美しい舞いをご堪能下さい。10点、10点、10点、10点…

○裏切らない美しさ

この美しさは標高の高さ、朝夕の寒暖の差のせいでしょうか。何度も見てても、この紅葉ほど色づきが美しい場所はありません。「四国エンデューロスペシャル」、コース脇のイチョウやモミジが、激しくも厳しいコースに色を添えているのでした。

かつて、ハードな文化の無い四国へG-NETシリーズを取り入れようとして始まり、今回でもう開催6回となります。ライダーのスキルアップ、ギャラリーへのインパクトに事欠かないスタイルは、今はもう四国に必要とされるレースと言えるでしょう。参加数的にはまだちょっと、しかしこのスタイルはプレスに貢献します。林道天国に根ざすには、まだまだコロサシ半ば、なのです。

主催キントウンの挑戦は、これからも続きます。ビギナーの門戸を広げる楽しいレース「ハードエンデューロ」、「そのコースを、陽が落ちてからわざわざ走るナイトレース「夜駆」」。さらに、巨大鉄板焼きケータリングを用意、わざわざ参加者に振る舞うとは、なんて太っ腹！そんなことしたら、夜の宴で終りなく盛り上がりやうじやないですか！かくして、美馬モーターランドは2daysかけてのお祭り騒ぎとなったのでした。

○この大会は裏切らない

残念なことに快晴が続いた為、路面はベスコン。難所以外は超ハイスピードレースの様相となってしまいました。まずは、罪のない一般ライダーのスタートが一段落した後、固定ゼッケンの最後尾一斉スタートが始まります。スタートフラッグの動きにいち早く反応したのは、新進気鋭#8山本アヤトHusqFC250。激しいアクセルで後続に石をまき散らしながら、狭いウズコースへと飛び込んでゆきます。しかしまだレースは始まったばかり、まずは最初のふるい落とし難所「壱の森」へと向かいます。

四国スペシャルに一度でも参加された方なら、この名を聞けば眉を寄せることがでしょう。ただのウズの斜面ながら、必ず戦場となる大問題の場所「壱の森」。今回も早速、全開の怒号とラジエターの蒸気が霧のように漂う状況となりました。

この場所を確実にシメることが、以降の順位に大きく影響します。ここは落ち置いて確実に走り抜けて…。なのに「ハヨどかんと、オレが登れんやろ！」と、お互いソノシリ合いで早速渋滞でうごめいているのは、森キョウスケ、ジマー大西、私め河津のG-NET落ちこぼれ3選手。なにやってんの！もう出遅れ確定です。



激しいのか、ヤバイのかわからない#9キヨカワ



楽しい雰囲気のスタート位置(使用前)。



その安定感、バツリでした#3ゴッチャン



#1ロッシ



ここでのグリップ、タイヘンでしたよね。

うつそうとした雰囲気「壱の森」

【リザルト】上位6名

優勝	高橋	博	BETA RR2T300 チームBETAエンジョイズ
2位	後藤 英樹	YZ250F	RT168
3位	河津 浩二	KTM300XCW	G-NET IRC BLAZEマウンテン
1位	永原 達也	KTM250EXC	IRC BLAZEマウンテン+BRAINS
5位	清河 良平	KTM250EXC	IRC BLAZEマウンテン+BRAINS
6位	毛利 雅一	SHERCO X-RIDE300	

○裏切らない結末で

まあ壱の森ショックは、レース中盤になるとほぼ解消。しかし、終始掘るぎなき難所が、ライダーを苦しめ続けます。その名は「能塚ヒル」。今や全日本MXのA2優勝で時の人のとなつた能塚選手、彼の活躍がそのまま崖の難易度に拍車をかけているようを感じます。ハドックから見上げができるこの段々崖は、とてもレースで使えるとは思えない斜度。路面状態が良いとはいっても、段々でヤラレるライダーが続出します。この崖の成功率イコール大会順位という状態となりました。

この状況下で、抜群の安定感で先頭グループを作るライダーが3名、まずはやはりこの人は盤石でした。チャンピ#1ロッシ高橋博BetaRR300。続いて、今回も超気合い入りまくりの#8山本アヤト、そして難所ハイスピードコースにめっぽう強い#3ごっちゃん後藤英樹YZ250FX。この3名が、移動区間の速さ、プラス、難所の安定した攻略でせめぎ合いを続けます。こうなれば体力勝負の若手が有利、ロッシも今回はとうとう追い込まれるのでしょうか。

しかし追い込まれたのは若手の方かも。ロッシ選手、終始ベースを落とすことなく最後まで走り抜き、どうとう今回も優勝のチェックカーフラッグを受けたのでした。強い！TKO経験でさらに安定感を増したロッシ高橋、完全勝利でした。

続く2位は、トップを追い込み続けた山本アヤトが…と思いつか、なんとマシントラブルでエンジン停止！最終戦が不幸すぎる結果に。

なので、ロッシを同一周回で追い続けた#3 ごっちゃん後藤が2位。最近低迷気味のごっちゃんでしたが、今回は見違えるほどの堂々とした速さ、彼の必勝パターンにハマった様子でした。となると、3位は…混乱した大会では火事場泥棒のように必ず現れる、我ながらスゴい能力だと自負してます、私め河津。ただ、Fフェンダーを木に極められて自分でへし折る事態となり、傷心中でしたが、続く4位はA目前、走りもちょっとかっこつけてます#9キヨ部長清河良平KTM250EXC。5位は、この定位置から更なるレベルアップを図りたいところ、#4Nタツ永原達也選手。3位から5位までをチームBLAZEマウンテンが独占、レベルの高さを見せつけました。6位毛利選手は、今回固定ゼッケン入りを賭けた大事な大会で、きちんと結果を残し勝負強さを見せつけましたが、同じく固定ゼッケンを狙っていた森国佑SHERCORCOは、上位走行中だったのに、これでも又残念なマシントラブル。しかしLG-NETを追いかけるホンキな姿勢は素晴らしいです！来季こそ頑張って下さい。

今回の模様は、徳島TVのCS番「Mamma Mima TV」のYouTubeで堪能できます、是非!!
<https://www.youtube.com/watch?v=426WBqebz0A>

2016 G-NET HARD ENDURO RANKING

順位	氏名	所在地	マシン	チーム	第1戦	第2戦	第3戦	第4戦	第5戦	第6戦	合計
1	高橋 博	愛知	BETA RR2T	TEAM BETA ENJOYS	25	12	22	25	25	25	134
2	和泉 拓	宮城	BETA RR2T	Team BETA ストレンジモーターサイクル	22	16	16	16	18		88
3	河津 浩二	福岡	KTM300XC-W	BLAZEマウンテンIRC/G-NET HARD	20		25		22	20	87
4	山本 礼人	愛知	Husqvarna TE250	ハスクバーナ農業+SHINKO		25	18	15	20	3	81
5	大西 実	奈良	BETA RR2T	JIMMYTEC BlueWing 九州男塾	10	20		20	14	14	78
6	水原 達也	福岡	KTM250EXC	BLAZEマウンテンIRC/BRAINS	11	15	14		16	18	74
7	後藤 英樹	滋賀	YZ250FX	RT168広島組		14	20		15	22	71
8	清河 良平	福岡	KTM250EXC	BLAZEマウンテンIRC/BRAINS	15	13	11		11	16	66
9	毛利 雅一	兵庫	SHERCO X-Ride	チームテクニカル	9	11	13			15	48
10	熊本 悠太	広島	BETA RR2T	Team Beta バイカーズペア CFC	18		15		13		46
11	森 匠佑	大阪	SHERCO SEF-R25	SHERKO 森のクマさん with HFW	12	8		14	3		37
12	大宮 康司	大阪	YZ125	DINO RACING 葛城組		22			12		34
13	中山 敏志	長崎	YZ250FX	大村ライダース&フジサワ	16		12				28
14	鈴木 健二	静岡	YZ250FX	BlueRiders with YAMALUBE	7	18					25
15	熊谷 一男	大阪	KTM150XC	葛城組		5		12	6		23
15	野田 大作	山口	TE250	R-2	13		10				23
17	佐伯 竜	北海道	Husqvarna TE250	ハスクバーナ札幌				22			22
17	浦野 誠二	京都	YZ250	のりすんず					10	12	22
19	飯田 晃久	北海道	YZ250F	TEAM SPEED				18			18
20	仲村 治郎		YZ250X	のりすんず					5	11	16
21	小川 知記	山口		チームシゲムラ	6				9		15
22	長谷山 淳	兵庫	KTM250R	チームナミタwithBSねお	14						14
22	佐々木 文豊	愛知	YZ125	アドブ豊田支店+SLF		6		7	1		14
24	毛利 真吾	北海道	YZ250	TEAM SPEED				13			13
24	斎藤 燕一		YZ250	のりすんず						13	13
26	重村 孝司	山口	YZ250FX	チーム シゲムラ トリブル☆コージ	3		9				12
26	高下 勝利		YZ250X	バイカーズペア					4	8	12
28	松野 孝夫	大阪	BETA RR2T	葛城組				11			11
29	栗田 武		KTM250EXC	デコボコフレンズwith KTM群馬		10					10
29	五十嵐 聖治	北海道	YZ250FX	TEAM SPEED				10			10
29	比嘉 保		YZ250X							10	10
32	菅 賢		T-Ride	ちーむ太平洋	7		2				9
32	木村 つかさ		KTM250EXC	闇雲		9					9
32	泉谷 之則		YZ250X	シリバード						9	9
35	中垣 哲夫	福岡	KTM FR250	Team BLAZEマウンテン				8			8
35	櫻井 啓蔵	大阪	KTM250EXCF	森のクマさんwithHondaFlyingWorld	8						8
37	政岡 秀幸		KTM300XC-W	SMBレーシング					7		7
38	東 隆宏	高知	YZ250FX	Team MSC Racing					6		6
39	栗田 武	熊本	CRF250	Honda 緑陽会 熊本レーシング	5						5
39	久保田 崇史		KTM250EXC	フラットワールド					5		5
41	山本 浩史		RM-Z250	SRFスポーツ		4					4
41	多田 雅志	熊本	CRF250	Honda 緑陽会 熊本レーシング	4						4
43	井村 哲久		YZ250	のりすんず+ハシモトレーシング					4		4
44	伊藤 拓真	愛知	YZ250X	IIIDA		3					3
45	大谷 大		CRF250	CRAZY LIFE 365 葛城組		2					2
45	西村 知誠	長崎	ハスクバーナ		2						2
45	北川 豊久		YZ250FX	ballsレーシング葛城組					2		2
48	藤川 洋文		tm250en	あるみやや					1		1
48	横田 悠		KTM350EXCF	RAC		1					1
48	土師 敬右	福岡	KTM250EXCF	G-NET HARD	1						1

【2017 G-NET HARD ENDURO 全日本選手権】

第1戦 1/8 MGS /佐賀県

YSP・南くるめ <http://www.ysp-minamikurume.com/>

第2戦 5/20.21 斑尾サンパティックエンデューロ /長野県

CGC実行委員会 <http://cgcenduro.jp/>

第3戦 6/25 サバイバルin広島 /広島県

SP忠男広島 <http://www.sptadao.jp/>

第4戦 10/7.8 裏琴引、琴引マウンテンED /島根県

琴引MED実行委員会 <http://kotobikiied.exblog.jp/>

第5戦 11/12 四国エンデューロスペシャル /徳島県

キントウン<http://atelier-ohka.com/daihonei/kintoun.html>

G-NET HARD ENDURO 全日本選手権 REGULATION

「統一規則」

1. 目的

「G-NET HARD ENDURO 全日本選手権」は、国内における唯一の、HARD ENDUROのシリーズ戦である。又、HARD ENDUROとは、困難なコースを走破することを主とし、モーターサイクルスポーツにおけるオフロードバイク競技の原点に立ち戻った競技である。私達は、HARD ENDUROという競技を通じ、モーターサイクルの音と舞弊に寄与し、ライダーの健全で健康な社会活動に繋がるよう、活動することを目的とする。

2. ライダーの心得について

・出走競技に必要である年齢、技能、体力を備えていること。
・参加者は、安全で適切なヘルメット及び装備を装着し、怪我の防止に努めること。
・ライダーは、常にマシンを安全にコントロールできる状態ではなければならない。安全にコントロールできない状態、本人又は他のライダーに危険を及ぼす恐れのある場合、参加は認められない。
・競技参加者は、常にスポーツマンとしての自覚を保ち、丁寧な言動は常に求めなければならない。又、各大会の競技規則、公式通知を熟知し、その規定に従いすべての行動に対して責任を持たなければならぬ。
・競技中は、他人の迷惑、危険を作らうような行為をしてはならない。
・アルコール類又は薬物（麻薬類、麻薬等）によって精神状態をくろくならぬはならぬ。アンチドーピング精神を遵守すること。

3. 出場資格について

参加車両の明記量については、オープンとする。トライアル車の出場は各大会競技規則に準ずるが、公式ポイントは付与しない。

4. シリーズ戦の発表について

各大会主催者と協議の上で、公式通知により発表する。

5. エントリーについて

各大会審査官規則に準ずる。なお、年間固定ゼッケンに選ばれたライダーについては、エントリー開始後速やかにエントリーを行うこと。

6. 順位等の決定について

優勝者、順位、及び完走者の表彰については、各大会の競技規則の定めるところによる。

7. 公式ポイントについて

上記規則の決定に基づき、公式指名（ポイント）を付与するものとする。なお、付与するポイントについては、下記表のとおりである。

1位	25P	2位	22P	3位	20P	4位	18P	5位	16P	6位	6G	7位	15P	8位	2G	9位	13P	10位	11P	11位	10P	12位	9P	13位	8P	14位	7P	15位	6P
16位	5P	17位	4P	18位	3P	19位	2P	20位	1P	CGCについて	CGCについては、「01/01」の順位を対象とします。																		

シリーズランキングの決定については、ポイントの合計数により決定する。なお、同一ポイントであった場合は

第1：当年の最高順位、同位であれば回数が上回る選手（最高順位のみが対象）

第2：当年の出場回数が多い選手

第3：当年のランクイン上位の選手

第4：年齢の高い選手

により順位を決定する。これまでが同位である選手については、同位と定める。

9. 固定ゼッケンについて

年間シリーズ総合9位までの者は、固定ゼッケンを付与する。さらに、翌年シリーズ全戦に出場する権利を保障する。（これは招待選手という意味ではなく、あくまで参加料の確保とする）

○ 黒色固定ゼッケン

・年間総合ランキンギ1位から9位までの選手・ゼッケンの色：黒ベースに白文字・2017黒色固定ゼッケンについては、下記のとおり。

[2017 G-NET HARD ENDURO 全日本選手権 固定ゼッケン]

#1 高橋 博	愛知	BETA RR2T	TEAM BETA ENJOYS	#2 和泉 拓	宮城	BETA RR2T	Team BETA ストレンジモーターサイクル
#3 河津 浩二	福岡	KTM300XCW</td					

G-NETは、個性的なライダー多い。
彼も又、少し前からG-NETに参戦を始めました。
そして2016斑尾、文句ナシの優勝。
毎回必ず上位に食い込む走破力。
かつてトライアル・デ・ナシオン日本代表と、
その経歴もまさに、進撃の巨人。
トライアル車不可とされたG-NET。
あえて自分で製作したマシンで走る、彼の真意は…

私のマシン 伊藤 明男

私のマシンがG-netに有利だと、思って創りました。

そう、昨年の

① 裏琴引きの滑る玉石の登りの連続

② 四国SPのタイヤ越え(なぜか2周目には無くなってしまった)

と斜面を途中で登る下の連続で爆発的に走破性が高ければ、多くの時間を獲得できるので、移動が遅くとも勝算が立つと考えました。

初戦の斑尾は、いくつもの条件が重なり優勝できました。

ゲレンデの移動・ヒルクライムは話にならない走破性と体への負担がありました。ただし、けものの道に入ると、差は解消され、しかも後半のスリッピーな狭い登りは、順位を担保されたことが有利に働いたと思います。このときはEDマシンに乗り比べていないので、自分のマシンの可能性を信じていたのですが…

3戦にむけて、トレーニングを鈴木昌平さんにつけて頂いたとき、全力で、初めて経験する超激震のコーストライの中、振り返ると、ひつたり笑顔で追いかけられた時…なぜ?その後、マシンに乗せて頂いたときの感動は今でも忘れられません。クルーザーだ…と感じました。

全ての衝撃をサスペンションが包み込む…包み込むからグリップする…グリップするからトラクションがしっかりとかかりタイヤのラインがトレースできる、一瞬ならついていけるけど、長丁場では話にならない、別次元だと…軽い脳心頭が一週間ほど残りました。次に、森光さんに練習つけてもらったとき、わずかながらのスピードを維持することの大切さを教わりました。そして、絶大なパワーと伸びがヒルクライムに必要なことをここで、現実を知りました。…(“w”)…

そして、サバイバルIN広島・裏琴引き・四国SPと続いて、私が求めていたG-netのセクションが無かった???.多少の起伏はあるが、コースレースとスピード移動の組み合わせだった…しかし、これでいいと考えています。



全日本ライダーが選ぶ、このデカール
G-NET巨大バナーも制作
SUSIE DIGITS KYUSHU



Custom Machine Factory
BLAZE
G-NETランカー
#3 河津浩二 #6 永原達也 #8 清河良平
をサポートする、HARD ENDURO
最強チーム「BLAZE」

カスタムペイント、板金、修理、
マシンセッティング、何でもOK!!!
福岡県遠賀郡岡垣町新松原
Tel: 093-283-2268

WANTED

要注意!!

G-NET HARD ENDUROでは、このようなカメラマンの方々が皆さんを狙っています。黙って撮られてはいけません!! どんなに忙しくても(ヒルクライム中だろうと、ヤチでハマってるマシンを引っ張り上げてる時だろうと)、必ずカメラ目線、ポーズをお願いします。なお、そのことがレース成績に響くことになったとしても、当方では責任を負いかねますので、ご了承下さい。



ジャンキー○垣 アニマルハウス 様。

エルツベルグロデオ、TKO等、国内のみならず海外のHARD ENDUROも取材を敢行する第一人者。

最高の記事、最高の写真、オリジナルカレンダーも発売中。「Enduro.J」で検索。



SOUSHI 様。

中部地区、特にC G C大会にて、めちゃ綺麗な画像を撮りまくり、無料配信しているキクタケ御方です。彼自身もなかなかのハード系達人なのですが。



ふみねこ みた 様。

言わずと知れた「道を踏み外したねこの部屋」エンデューロ界最強ブロガー。

自らもISDE参戦経歴あり、狙われたらもうネタになるしかありません。諂めて下さい。



ミコ 様。

最初は小さなカメラで獲りまくっていましたが、いつしか本格一眼レフにハマり、今やガルル撮影大賞にも選ばれた本格派。こちらも無料配信して頂いてます。ちなみに、写真の人はアシスタントのミコです。



□ G-NET HARD ENDUROは、各大会のレポートを全て
「BIG TANK MAGAZINE」に掲載しています。
海外HARD ENDUROの記事等、内容も幅広く読み応えあります。
定期購読、絶賛募集中です!!

□ SPESHAL THANKS
BETA MOTOR JAPAN BLUE WING IRC TIRE KTM福岡
Krazy MC-JAPAN SINISARO MTXR ナップス ラッキー商会 SLICK PRODUCTS
ダートバイクZIM 24サービス 御所オートランド (敬称略、順不同です)

以上の企業様のご協力により、本誌はフリーペーパーとして発行することができました。
日頃からG-NET HARD ENDURO全日本選手権の活動を支えて頂き、ありがとうございます。

□ 冊子「G-NET」では、広告を募集しています。又、G-NET各レース会場への出店、レーススポンサー、協力店様も同時に募集しています。
G-NET HARD ENDURO 全日本選手権 事務局代表 冊子編集 河津 浩二 <http://g-net.hard-enduro.com/>

Go Hard Moto

Photo Aki Kusudo

GH moto.com
Go Hard Moto

GEKKOTA = NO LIMIT

iX-09W **GEKKOTA**

トップライダーが開発に携わり、そのこだわりを凝縮させた
ハードエンデューロ専用タイヤ「GEKKOTA」。
前後輪に GEKKOTA を装着する事で、
<苔の生えた岩盤><沢><木の根><キャンバー>などあらゆるシチュエー
ションで強力なグリップ性能を發揮。

[FRONT] 80/100-21 51M WT
[REAR] 110/100-18 64M WT



RIDE × COMFORT



JAPAN
QUALITY
SINCE 1926